

〜終戦70年あの夏から70回目の夏〜

# 夏の日の陽炎

作 山口雄大

横浜 劇団麦の会

登場人物 配役

増田菊子（班長さん）

高倉百合子（奥様）

高倉小百合（お嬢様）

木下ウメ

関口さくら

木村拓次郎

本間三郎

高倉一範

薩摩芋太郎

上戸椿

上戸あやめ

氷川きよ太

第一場 (夏の日の陽炎)

ザ・タイガース「廃墟の鳩」が流れる中。

静かに 客席暗くなる

♪ 生きることの喜びを今こそ知る人皆々♪

空襲警報が遠くから聞こえてくる。次第に大きくなり平和な世界の終焉を告げる。

舞台、明かり絞られ 防空壕の中へと。

音楽ベンチヤーズに変わり。

不安な感じの美咲町町内防空壕の中。(緊迫感は希薄である)

音楽にかぶさるように B29 の編隊の轟音

空襲警報がさらに高らかに鳴り響く。

防空壕の中には、

増田菊子↓班長さん（美咲町町内会・隣組班長）

高倉百合子↓奥様（子爵高倉家のご婦人）

木下ウメさん（高倉家の家政婦さん）

関口さくらさん（同じ町内の若奥さん、戦地に夫を送り出している、赤ん坊を抱えている）

ただやり過ごすだけの時間が流れていく。

フユ〜〜ドカン！と一発大きな爆発音！

一同 キヤ〜（と悲鳴初めて焼夷弾が美咲町町内へ落下の様）

舞台中央防空壕の扉が開かれ、一条の光が差し込む。

一人の男が飛び込んでくる。

男の名は木村拓次郎。みすばらしい出で立ち。片足を引きずっている

木村拓次郎 あつい！あつい！あつい！あつい！こりやたらまんわ！あつあつあつ

木村拓次郎、ひとりで大騒ぎだが、壕の皆さんは、突然の侵入者に片隅に固まり、木村拓次郎を警戒している。奥様が竹やりを手に立ちほだかり

高倉百合子 何者ですか！

木村拓次郎 え？いや！え！（目の前の竹やりに）いやいやいや怪しいものではございません。フラフラしていたらお天道様からヒュッポッカ〜ンで、アッチチチですよ〜ケツに火が火が付いちやっでも〜びつくりですよ〜ケツに火がついてしまっても〜たまりんませんわあガハハハハ

高倉百合子 （クスリと笑）

増田菊子 お静かに願います！なんですか！尻だのケツだの不謹慎な！

木村拓次郎 しかし〜ま〜ポッカ〜ンときたら

増田菊子 やかましい！

木村拓次郎 へ〜

増田菊子 そこに腰を下ろすか、出て行くかどちらかにしていただきたい！

木村拓次郎 外に出るとはそんな殺生な〜そんな鬼みたいな顔して〜

増田菊子 ならば、黙って座る！私はこの町内の秩序と銃後の務めを任されているのです

木村拓次郎 頼もしい！実に頼もしい！その力強い二の腕！大地を踏みしめるその太もも！まさに富国強兵！

産めよ増やせよ！欲しがりません勝つまでは！えらい！あんたはくえらい！

木下ウメ  
(クスリと笑う)

増田菊子  
木下さん！今笑いましたね

木下ウメ  
いえ

増田菊子  
聞こえましたよ

木下ウメ  
そのようなことはごじやりません

木村拓次郎  
ごじやりませんって

増田菊子  
確かに聞こえました。私に耳にあなたの笑い声が！

木村拓次郎  
私の耳にも聞こえましたじよ！まったくもって不謹慎ですじよ！戦地で戦う兵隊さんたちに申し訳ないですじよ！銃後をあじゆかる！

木下ウメ  
(たまらず噴き出す)

木村拓次郎  
笑いましたじよ！班長しゃん

増田菊子  
やかましい！

木村拓次郎  
やかましいでしゆね！それでは、わたくしがひとつ注意してまいります！

木村拓次郎、扉を開けて、外に向かって

木村拓次郎 おくいやかましいじよ、班長さんがおこつてるじよ

増田菊子 (竹やりで木村拓次郎のケツを押し出し)

木村拓次郎 いたくくく

増田菊子 (扉を閉める)

なんとなく穏やかな空気が流れ始めていた防空壕の中であつたが：

班長がものすごい形相で振り返ると、一同おとなしく、位置に戻る

関口さくらの抱いていた赤ん坊が泣き出す

増田菊子 関口さん！

関口さくら すすいません…

木下ウメ お漏らしですかねえ

関口さくら 大丈夫のようですが

木村拓次郎 (いつの間にか関口さくらの後ろにいる) おっばいでしょ

関口さくら そそうでしょうか？

木村拓次郎 まゝ間違いないですね。その泣き方は

関口さくら そうですかあゝ

増田菊子 あなた！あなたどこから！

木村拓次郎 え？そつちから

増田菊子 出て行きなさい！

木村拓次郎 あゝそうですかゝそうですかゝ

増田菊子 そこ壁！こつちから！

関口さくらの子供が大きく泣く

増田菊子 関口さん！

関口さくら すすすいません…

増田菊子 まったく！銃後の守りが！

木村拓次郎 あれあれあれゝどうしちゃったかなゝ（関口さくらの子供を抱きかかえて）甘えん坊の僕ちゃん

だねゝ男がメソメソ泣くもんじゃありません！男は強く！逞しく！

関口さくら お女の子なんです…

木村拓次郎 え？そうなの？え？残念なことです

関口さくら え？

木村拓次郎 ごめんなちゃいね（子供を手荒くあやしながら）おお笑ってますね（よしよし、笑顔です）  
よし女子は笑顔で勝負です。特にあなたは笑顔で勝負です。よしよし

増田菊子 （子供を関口さくらに返し）ごほん！壕の中では私語は厳禁です！

一同 はい！

増田菊子 お国の為に命を懸けて戦っている兵隊さんのことを思い！内地を預かる私たちが何をすべきかわかってますね！

一同 はい！

増田菊子 私はこの町内の、秩序と銃後の務めを任されているのです。（木村に）あなた！あなた

木村拓次郎 （だれ？だれ？）

増田菊子 あなたです！

木村拓次郎 （わたし？）

増田菊子 あなたです！他に誰がいるんですか？

木村拓次郎 はい？

増田菊子 あなた見かけない顔ですけど

木村拓次郎 この手の顔は珍しくは

増田菊子 名前は？

木村拓次郎 はい？

増田菊子 名前は？

木村拓次郎 (小さな声で) 木村です

増田菊子 何ですか？

木村拓次郎 木村です

増田菊子 大きなで！

木村拓次郎 木村です！

増田菊子 下は？

木村拓次郎 は？

増田菊子 下の方は？

木村拓次郎 え？

増田菊子 ですから下の方は？

木村拓次郎 ここでですか？

増田菊子 その下じゃない！イチイチめんどくさい！竹やり！

木下ウメ　はい！（渡す）

高倉百合子　（見かねて）まゝこのくらいで

増田菊子　しかし奥様

高倉百合子　木村さん

木村拓次郎　木村拓次郎です！まゝ親しい友は尊敬と愛情をこめて「キムタク」と私の事を

高倉百合子　ごきげんよう木村拓次郎さん

木村拓次郎　水くさいですなあゝキムタクと

増田菊子　無礼者が！（疲れている）お願いです。木村さん。静かに座っていてください！この壕の中では

勝手な行動は御法度です！それが、それが守れないのであれば！

木村拓次郎　あれば？

増田菊子　出て行っていたきます！

木村拓次郎　それは！困ります！！

増田菊子　困るのならば！私の言うことに従ってください！私はこの壕の責任者であり母です！

木村拓次郎　は・は！

増田菊子　母の心は皇后陛下のお心！兵隊さんたちの心は天皇陛下のお心！お国の為に命を投げ出し

て戦っている兵隊さんたちの…

遠くで鳴り響く爆音に混ざって、ピアノの音色が聞こえてくる

木村拓次郎 ピアノか？

関口さくら お上手でしょ？

木村拓次郎 実に上手ですが

関口さくら お嬢様です

木村拓次郎 お嬢様？

増田菊子 奥様！このようなことが続くようでは！

高倉百合子 申し訳ございません

木下ウメ いやいやいや奥様はどうにか出て来るようにと説得をされたのですが、お嬢様がお部屋に鍵

をかけてしまわれて、押しても引いてもビクともしない

増田菊子 使用人には聞いていません

木下ウメ 申し訳ございません……

増田菊子 聞き飽きましたそんなセリフは！

木村拓次郎 どんなセリフ？

関口さくら し

増田菊子 ピアノですって、ピアノ！このご時世にピアノを弾いているなんてことが！このような言葉を高

倉中尉殿の妹君に向かって言うことになろうとは……「非国民です！」

高倉百合子 はい：

増田菊子 この町の誇りが汚されようとしています。士官学校を首席で卒業なされた中尉殿の名誉が汚されてしまいます！この町の誇りを守らなくてはいけません。お分かりですか？

一同 はい

増田菊子 私の祖父は日露戦争における日本海海戦において、勇敢にもロシアのバルチック艦隊と刃を交え海の藻屑と消えました

木下ウメ またはじまったよ

木村拓次郎 なにが？

木下ウメ 長いんだよ！班長さんのこの話は

増田菊子 （構わず続ける）私の父上は！先の大戦で英霊となり、私の主人は満州の地で散り！そして今！

我が息子は南方の地にて、お国の為に命を投げ出し、ご奉公させて頂いております。

さらにさかのぼれば、我が曾祖父は西南戦争の

木村拓次郎 運のない一家だなくしかし

関口さくら しゝ

増田菊子 その私の預かる町内において！

高倉百合子 誠に申し訳ございません。娘にはきつく言い聞かせますので

増田菊子 あす！明日また、同じことが繰り返されるようであれば！私にもそれなりの覚悟というものがござ

います！明日！奥様の手に余るようであれば

高倉百合子 申し訳ございません

増田菊子 本日まで子爵高倉家、そして高倉中尉殿の妹君ということで私も目を瞑っておりましたが

高倉百合子 感謝申し上げる次第でございます。

増田菊子 明日です。明日までです。

高倉百合子 わかりました

木下ウメ 奥様……

木村拓次郎 あの〜班長さん？

増田菊子 なんですか？

木村拓次郎 明日ですね〜空襲がなかった場合はどうなるのでしょうか？

増田菊子 あります。

木村拓次郎 そんな毎日毎日？

増田菊子 あります、とにかく明日です

木村拓次郎 来てほしんじゃないの？

増田菊子 来てほしいです！

一同 えくくく

増田菊子 やかましい！とにかく明日です！いえ次の警報までです！

高倉百合子 はい…

木下ウメ 奥様…こんな時に、お坊ちやまがいて下さったら…

ピアノに合わせて、木村拓次郎が口づさむ

木村拓次郎 ♪いくのちくみじかしく恋せよとおとめく

空襲警報解除のサイレンが鳴る

関口さくら か解除ですかね…

木下ウメ 夕飯の支度には間に合いましたね

木村拓次郎 さてさて〜どうも〜お邪魔しましたね〜出ましょ〜出ましょ〜息が詰まりますね〜

この竪穴式住居は〜あ〜奥様

高倉百合子 はい？

木村拓次郎 お嬢様によろしくと

高倉百合子 はい

木村拓次郎 美しい音色だと、明日は、いや、次回はお姿を見せて頂きたいと

高倉百合子 伝えておきます

木村拓次郎 さあて〜皆様〜それではまた！〜ごきげんよう！

一同 (それぞれに) ごきげんよう

関口さくら おかしな人ですね

木下ウメ どちらからいらしたのかね〜

増田菊子 さあ。警報は解除です。

関口さくら それでは、失礼いたします。

みんなそれぞれに、壕を後にする。

残った増田菊子、ピアノの音色にのせて

増田菊子 ♪いゝのちゝみじかしく恋せよゝ乙女ゝ

木下ウメ、ドアを開き

木下ウメ 班長さくん！

増田菊子 はい！

木下ウメ 音が外れていますウシシシ

暗転。

ピアノが残って

第二場（夏の日の陽炎）

防空壕の外。 夜

前場の延長からピアノが聞こえてくる。

一人の学生服の青年が現れる。彼の名は、本間四郎

生真面目に辺りを見回しながら、バルコニーから漏れ聞こえてくるピアノの音色に耳を傾け、ウツトリとしている。

その後ろには、雑布に包まって寝ている。木村拓次郎さんがいる。

本間四郎

(木村拓次郎には気が付かず、バルコニーを見上げ恍惚の表情) ハ〜ん〜ん〜ハ〜ん〜ん

木村拓次郎

昨夜も来てたな

本間四郎

(とんでもなく驚いて) なに！何の事ですか！

木村拓次郎

何のことですか？こんな所に身を潜めてハ〜ハ〜溜息ついて

本間四郎

なんでもありません！なんでもありません(立ち去ろうとする)

木村拓次郎

待て！

本間四郎

はい！

木村拓次郎

青年よ！何を苦しむ。それは恋！恋をしてしまったのです

本間四郎

ややややややややめてくださいよ〜そんなじゃありませんよ

木村拓次郎　じゃあなんなんだ

本間四郎　つまり、それはその

木村拓次郎　つまりそれは恋！恋をしてしまったんです

本間四郎　やめてくださいよ！聞こえるじゃないですか！

木村拓次郎　なんだよ！情けない声出しやがって「やめてくださいよ！」ってそんな男に惚れるかお前さんは？

本間四郎　んんんん

木村拓次郎　男のどこに女は惚れるか？

本間四郎　どどどどどどこですか？

木村拓次郎　強さだよ！勇ましさだよ！勇ましく戦い、勇ましく散る！その愛する男の面影を慕いて女は枕を

ぬらす！今の流行の恋はそれだよ

本間四郎　勇ましさ……ですか……

木村拓次郎　ですか……って力抜けてどうするんだよ！あ！情けないね！諦めろ、まあ所詮お前には高嶺の花だ

本間四郎　そんな

木村拓次郎　じゃあ、ここから叫べ！「小百合さ！んって」

本間四郎　小百合さんですか！美しい名前です！ね！小百合さん、小百合さんウシシシシ

木村拓次郎　なんだよ！名前も知らないのかよ

本間四郎 えくピアノの美しい旋律と麗しいお姿をここから、物陰に隠れて、夜の闇にまぎれて拝見してお

りました

木村拓次郎 いつから？

本間四郎 かれこれ三月ほど

木村拓次郎 帰れ！二度と来るな！お前を我が国初のストーカーと認定してやる

本間四郎 「名前って何ですか？私たちが薔薇と呼んでいる、あの花の名前が何と変わろうと薫りに違いはないはず」

木村拓次郎 なんだ？

本間四郎 シェークスピアです

木村拓次郎 あー知ってるよナポレオンと闘ったんだったなあ

本間四郎 違いますね〜中世の英国の劇作家です

木村拓次郎 なんだ〜急にインテリぶりやがって

バルコニーに物音。

身を隠す2人

木村拓次郎 出て来たか？

本間四郎 (時計を見て) いつもの時間ですから

木村拓次郎 いつも？

本間四郎 午後8時15分から9時までではあそこで、ぼんやりと夜空を眺めているんです…月明かりに照ら

されて星空を眺めるその美しいお姿が……

木村拓次郎 このストーカー野郎が！どれどれ(覗き込み、そこには班長の姿) うわ！

本間四郎 どうしたんですか？

木村拓次郎 しっ伏せる！伏せる！

増田菊子 今、人の声が？

現れたのは増田菊子と高倉百合子

とつさに猫の真似。じりじりと後退していく2人

増田菊子 猫を飼ってらっしゃるのですか？

高倉百合子 いえ

増田菊子 野良猫ですか

高倉百合子 本日はわざわざ、夜分においでいただき、ありがとうございます

増田菊子 いえ奥様、ピアノは御法度ですが、戦地の兄上様を思う気持ちに胸を打たれました。そのお気持ちに免じて多少は大目に見ます。

高倉百合子 申し訳ございません

増田菊子 この町の英雄であらせられる、高倉中尉殿の御武運ご無事を祈る気持ちに違いはございません。

しかし、何事にも節度と言うものが

高倉百合子 ごもつともです

増田菊子 失礼は承知の上で今夜は足を運ばせて頂きました……あの……奥様

高倉百合子 はい

増田菊子 聞くところによりますと、南方では戦火益々激しき状況と聞きます。勝手なお願いではございませんが、中尉殿に息子の事……どうかお目にかけて頂けますよう（頭を下げる）

高倉百合子 どうか……頭をお上げください。

増田菊子 奥様……

高倉百合子 （星空を見上げながら、ため息をつき）近頃は、星空を眺めていると、ため息が出てきます……美しいものを見て、昔は心が躍ったものなのに……今はなんだかもの悲しくなってしまう……

増田菊子 奥様……

高倉百合子 さあ、お茶でも召し上がりますか、どうぞ、こちらへ  
増田菊子 ありがとうございます

2人去る。いつの間にか戻ってきた木村拓次郎

木村拓次郎 星空を眺め、母は息子を思い、乙女は兄を思うかくどことなく、哀愁というか、淋しさを感じる  
旋律だったからなあ

本間四郎 (帰って来る) 何がですか？

木村拓次郎 お嬢様のピアノだよ

本間四郎 あ

木村拓次郎 あゝってなんだよ

本間四郎 僕は向こうで猫やってみましたからニヤオ

木村拓次郎 (もったいぶって) お嬢様のピアノなくあれなくあの音色にはなく

本間四郎 なんですか？

木村拓次郎 戦地にいる、愛しい愛しい恋人を思って涙をこらえて…弾いているんだってよ

本間四郎 そんな！そんなあああああ

木村拓次郎 大きな声で

本間四郎 どうしてだ〜どうして打ち明けてくれなかったんだ〜僕の純情なこの心を弄んで！

木村拓次郎 弄ぶも何も〜お前さんただのストーカーじゃねえの？

本間四郎 おい！

木村拓次郎 おい？

本間四郎 飲みに行こう！

木村拓次郎 は？

本間四郎 の〜みにいくぞ〜

木村拓次郎 お！勇ましい！

本間四郎 俺に！ついて来い！

木村拓次郎 はあ

二人消える。

バルコニーに高倉小百合お嬢様登場

高倉小百合 (ぼんやりと星空を眺めている) あっ！流星… (祈る)

空襲警報が鳴る

高倉小百合 (ハッとして顔を上げる)

木下ウメ (遠くから) お嬢様〜お嬢様〜空襲です! お嬢様〜どちらですか?

高倉小百合 ここよ

木下ウメ お嬢様! こちらでしたか? さあ急いでください

高倉小百合 大丈夫よ。小さな町ですもの流れ星も見過ごしてしまうわ

木下ウメ 急いでくださいな

高倉小百合 はいはい

空襲警報に、P29の編隊が重なり

防空壕内に明かりが入る

増田菊子 空襲警報発令! 空襲警報発令! さあ急ぎなさい

関口さくらが子供を抱えて入ってくる  
高倉百合子が入ってくる

増田菊子 奥様！お嬢様は？

高倉百合子 間もなく

増田菊子 わかりました

木下ウメが入ってくる

木下ウメ さああお嬢様急いでくださいな

高倉小百合が入ってくる

高倉小百合 大丈夫よ。そんなに慌てなくても

関口さくら おおお嬢様

高倉小百合 こんばんは

関口さくら お元気そうで

高倉小百合 (関口さくらの赤ん坊に) まゝこんなに大きくなったの？抱かせてくださる？

関口さくら どうぞ

高倉小百合 まゝかわいいくんとずいぶん重たくなったわねゝよしよしくいい子いい子あら？笑っているわ

関口さくら よかったわねゝお嬢様に逢えて

高倉小百合 いい子いい子

増田菊子 壕の中では

木下ウメ 静かにゝ

高倉小百合 (腰を下ろしながら) ご主人からご連絡は？

関口さくら はい、先週、手紙が届きました。

高倉小百合 御無事で？

関口さくら はい…

高倉小百合 淋しいですねゝお父様、早く帰って来るといいでしゅねゝ

関口さくら そうでもないですよ、この子と二人でのんびりと暮らしています…

木下ウメ 亭主元気で留守がいいってねゝ

高倉小百合 まあ、ウメさんはひどいことを言うわねゝハハハ

木下ウメ・関口さくら　ハハハハ

扉にドンドンとノックの音

木下ウメ　木村さんじゃないかね？

高倉小百合　木村さん？

木下ウメ　すごく愉快な人なんですよ（扉に向かう）

増田菊子　開けなくてよろしい

関口さくら　そそんな

増田菊子　お国の為です

再び「ドンドンドン」

木村拓次郎（声）　ごめんくださーい

関口さくら　木村さんです

増田菊子　（咳払い）

高倉小百合 (立ち上がり扉に向かう)

増田菊子 お嬢様!

高倉小百合 (毅然と) 子爵高倉家令嬢です

高倉百合子 小百合さん…

増田菊子 は、はい…

高倉小百合 さあ、どうぞ (扉を開ける)

酔いつぶれた、本間四郎を木村拓次郎が抱えて慌ただしく入ってくる。

木村拓次郎 ちょっと、ちょっと失礼いたしますよ

増田菊子 いったい何事ですか!

木村拓次郎 説明は後後で、こいつをとつと! (床に投げ出す)

本間四郎 いたい、痛いけど、気持ちいい、オヤジ、もう一杯!

木村拓次郎 もう一杯どころか、半分でこのありさま

本間四郎 (もがきながら) あくく、悲しい、悲しすぎるこの現実…:僕の青春のなんと惨めで悲しいことか…

シェークスピアも言っています「恋はまことに影法師、いくら追っても逃げていく。こちらが逃げ



増田菊子 やかましい！

本間四郎 だつて子供が愛の結晶が（急に吐き気が）ウツウツツツツツ（壕

の外へ走り出す）オエエエエエエ

木村拓次郎 まったくだらしのない男だ

関口さくら 大丈夫でしょうか？

木村拓次郎 大丈夫つでしよ空襲はうんと北の方角ですから

高倉小百合 （関口さくらに子供を返して）はじめまして

木村拓次郎 おくこれはこれは初めまして。今夜はあなたの指先から奏でられる一編の詩はお休みですか？

高倉小百合 （にっこりと微笑んで）今夜は遠慮しましたの。圧力がかかりまして

高倉小百合 小百合さん

木村拓次郎 かなりの圧力ですな

高倉小百合 押しつぶされてしまいそうです フッフ

増田菊子 も～～～不謹慎です

本間四郎 （外から）オエエエエエエ

木村拓次郎 おい！不謹慎だぞ

本間四郎 すいませオエエエ

一同爆笑

増田菊子 不謹慎極まりない！

高倉小百合 ならば極めましょうか？

増田菊子 はい？

高倉百合子 小百合さん。

高倉小百合 お兄様の好きな詩を朗読させて頂きます

木村拓次郎 ほくいいですなあ

関口さくら 素敵です

高倉小百合 ここなら、大きな声を出しても大丈夫でしょ？よろしいですか？

増田菊子 (仕方なく) 中尉殿の好きな詩ならば、清聴させて頂きます。

高倉小百合 これは、お兄様が出生の朝に私に教えてくださった詩です。お兄様の一番好きな詩です。

それでは

「おおこの身とこの命よ。

幾度も思い悩むこの疑問

信仰のないものが長蛇の列をなし

都会は愚か者であふれんばかり

何処に美点があるというのか……（言葉に詰まってしまふ）…

高倉百合子  
小百合さん…

本間四郎  
（場違いながら、必死に励まそうとする気持ちはわかるが現れて）

「おおこの身とこの命よ

答えはひとつ

君がそこにいるということ、

高倉小百合・本間四郎（言葉が重なるが…）

「君がそこにいるということ

生命が息づき

この身がまさしく存在するということ

壮麗な芝居がつづけられ

君もそこに一編の詩を寄せることができるということ」

高倉小百合  
…お兄様…

しばし沈黙

本間四郎 御無礼いました…（自ら出て行く）

木村拓次郎 …素晴らしい！なんと美しい詩でしょう！私の大好きな詩です

高倉小百合 ご存知でしたか？

木村拓次郎 中世英国の劇作家シェクなんたら

高倉小百合 今のはホイットマンですわ

増田菊子 不謹慎です！いくら中尉殿の妹君とはいえ、敵国の詩を口にするとはいえ、

高倉小百合 美しいものに敵も味方もないはず！

木下ウメ おおおおお嬢様！！

増田菊子 何ですと？

高倉小百合 おばさまの心にも波が打ったはず、さざ波かも知れませんが

増田菊子 …

高倉小百合 おばさまの好きな詩は？心に残る言葉は？

増田菊子 …

高倉小百合 御子息が出生の朝に、おばさまに聞かせてくれた言葉は？

増田菊子 お嬢様……

高倉百合子 小百合さん！あなた一人が辛い思いをしているのではありません！

高倉小百合 お母様……

木下ウメ ……さあ、お嬢様こちらの方で……

高倉小百合 ……

しばし重い空気が漂う

木村拓次郎 さあてとく私も好きな詩を一つよろしいかな？

木下ウメ はい、どうぞ

木村拓次郎 では！これは、我が国が誇る偉大なる詩人の詩です。（勇ましく）敵を撃破し！我が国に必ずや勝利をもたらす勇ましくも、たくましい詩です！よろしいかな？

増田菊子 結構です

木村拓次郎 では（直立）一同起立！

一同起立？

木村拓次郎 敬礼！恐れ多くももったいなくも、ひとつ歌わせて頂きます！一同ついてくるように  
一同 はい！

木村拓次郎 ゴホン！

「踊りに行こうよ青い海のもとへ。

二人で歌おう明るい恋のリズム。

でっかい太陽が恋の女神なのさ。

踊りに行こうよ海は友達なのさ」

木下ウメ あの〜木村さん？

木村拓次郎 ♪シーサイドバウンドゴ〜バウンド！♪

「シーサイドバウンド」始まる。夢の世界が広がる

木村拓次郎 ♪踊りに行こうよ青い海のもとへ

夢さん ゴ〜バウンド！

木下ウメ・木村拓次郎 二人で歌おう明るい恋のリズム

夢さん　　ゴッバウンド！

関口さくら・木下ウメ・松原　　でっかい太陽が恋の女神なのさ

夢さん　　ゴッバウンド！

高倉小百合・関口さくら・木下ウメ・木村拓次郎　　踊りに行こうよ海は友達なのさ

夢さん　　ゴッバウンド！

一同　　シーサイドバウンドゴッバウンド！

一同、踊り出す。笑顔が自然に溢れる。

増田菊子が口を開くと、夢の世界は終わり現実が壕を覆う

増田菊子　　（つかえにつかえていたものを吐き出すように）　息子は出生の朝！

一同　　（止まる）

増田菊子　　息子は出生の朝……私になんといったかと……ただ一言「怖い」と言いました！中尉殿のように気の利いた詩の一つを口にするわけではなく！ただ一言「怖い」と……そんな息子です！何か私に言いたいことが！

高倉小百合　　奥様……

木下ウメ 班長……

空襲警報解除のサイレン

関口さくら お終わったみたい……ですね……

増田菊子 (気を立て直して) 警報解除です。さあ終わりました。さあ

関口さくら それでは失礼します……

増田菊子 警報解除です。さあお疲れ様でした

高倉小百合 (班長に近づき) おばさま……わたし……

増田菊子 さあ！警報解除ですさあ

高倉百合子 それでは、失礼いたします

高倉家出て行く。残った増田菊子と木村拓次郎

増田菊子 さあ警報解除です

木村拓次郎 「怖い」と

増田菊子 ……

木村拓次郎 班長は、なんと？

増田菊子 決まっているじゃありませんか「武運長久をお祈り…して…」失礼します

増田菊子 扉を閉めると、壕の中の灯りが木村拓次郎に絞られていく

扉が開き、ひとりの軍人が立っているが、後ろからの明かりで影になって見えている

西嶋 ……

木村拓次郎 西嶋か？

西嶋 (敬礼)

木村拓次郎 西嶋…お前も… (敬礼)

暗転

第三場 (夏の日の陽炎)

壕の中に眩しい朝の光が差し込む

壕の中には、関口さくらさんと木下ウメさんと関口さくらさんの赤ちゃん

関口さくら (ドギマギしながら) いいんですか？ なななんだかドキドキしてしまつて…

木下ウメ 肩の力さく抜いてくはいく深呼吸くフ

関口さくら それでは、い行きます！

木下ウメ はいどうぞ

関口さくら (戸惑いながらも思い切つて声を出してみる)

「おおおおこの身とこの命よ！」 どどどうですか？

木下ウメ いいですよ

関口さくら そそうですか？ 「おおこの身とこの命よ！ おおこの身とこの命よ！ おおこの身とこの命よ！ おお

木下ウメ 何回言うんですか？

関口さくら ああ、すいません…

木下ウメ どうしました？

関口さくら さつそくで申し訳ないのですが、これは何と読むのでしょうか？

木下ウメ 私にはちよつと

関口さくら 難しいですね…私には…

木下ウメ 飛ばしてしまえばいいんじゃないですか？

関口さくら そうですね、飛ばしましょう

木下ウメ 飛ばしましょう

関口さくら (気を取り直して)「おおこの身とこの命よ！んゝたびもお・い・な・む・のおお…

木下ウメ 飛びっぱなしでは…

関口さくら だダメですね…それはそうですね。お嬢様みたいに、かつこよくは行かないですものね…すす

木下ウメ いまませんでした。これ、お嬢様にお返ししていただけますか…

木下ウメ いいじゃないですか！「おお！おお！」ってこんだけでも

関口さくら はい？

木下ウメ 気持ちいいじゃないですか！「おお！おお！」って大きな声出して！「おお！おお！」って、

もゝ扉を閉めてしましましょう！(防空壕の扉を閉める)さあ、遠慮なくどうぞ！

関口さくら そそいですよね！「おお！おお！おお！おお！おお！おお！おお！なんだかすつきりします！

木下ウメ 「おおおおおおおお」さああゝいい気持ちです！ハハハハ

関口さくら・木下ウメ 「おお！おお！おおおおお〜〜〜」

途中から壕の中で寝ていた本間四郎が加わっている

本間四郎 おお！おおおおおおおおお

関口さくら・木下ウメ おおおお？？？？？

本間四郎 おおおはようございます！

関口さくら・木下ウメ（驚いて悲鳴を上げる） おおおお〜

本間四郎 おはようございます

木下ウメ なにしてるんだあ！

本間四郎 いやあく外で寝ていたんですが、目覚めたらここに

木下ウメ 寝相が悪いなあ〜

本間四郎 面目ない

関口さくら あ！

本間四郎 なんですか？大きな声で

関口さくら あん〜あなたならこれ読めますか？



らく士官学校へ引つ張られて行ってしまつて高倉の家も「さあ、これから」って時だっただけに、奥様も気を落とされて……まったく出来のいい男は、みんな兵隊に引つ張られてしまつて、残ったのは出来損ないばかりだ。あゝ出来損ない出来損ないつと。

本間四郎 すいません

木下ウメ ハハハ冗談ですよ。あなたは学生さんかい？

本間四郎 え、大学の3年生です

木下ウメ 学校は？

本間四郎 この所は行っていません。行ったところでこのご時世にいい若いモンが机に座つてお勉強でもないですし……田舎の母ちゃんは、「危ねえから早えとこ帰つて来るべ」つて言つてますが、

木下ウメ 帰らねえのかい？

本間四郎 逃げ出すみたいで、どうも気が進まないといひますか、なんだか、やり残したことがあるようなあゝというか、まだ何もやつていないというか……

木下ウメ うんうん、煮え切らねえなあゝつて言うか、イライラすんなあ学生さんよ

本間四郎 あ！

関口さくら びっくりした

本間四郎 え、いやなんでもないです。

木下ウメ　　なんだべし言いかけてやめるなんて、男らしくねえなあ

本間四郎　　あのしそのしですねし

木下ウメ　　はつきりしろって！お嬢様の好みの男性は強く逞しい男の中の男！って人なんだからよし

本間四郎　　そ、そうなんですか？

木下ウメ　　はつきりしねえ、男と酔っ払って寝ているような男は大嫌いだ！

本間四郎　　両方とも僕じゃないですか

関口さくら　　フフフ

本間四郎　　いいんですよし僕は昨夜、青春の1ページを閉じたのですからし…愛するあの人の家庭を壊してはいけないし…と誓ったのです。

関口さくら　　何をおっしゃってるの？

本間四郎　　いいんです。気にしないでください。しかし、愛の結晶を胸に抱いたあの方は美しかったし美しすぎて僕は思わず、胸に抱かれている赤子がぼくであつたらしくなどと、少々変態チックな妄想を巡らせてしまいましたし僕は恥ずかしい！

木下ウメ　　学生さん、どうも何か大きな勘違いをされているようなし

本間四郎　　勘違い？

木下ウメ　　お嬢様は、まだ女学校の二年生でももちろん独身、子供なんてガハハハ

本間四郎 本当ですか？僕をからかっているんじゃないでしょうね！

関口さくら 昨夜お嬢様が抱いていたのは、うちの子です

本間四郎 うえ！

木下ウメ そういうことだガハハハハ

本間四郎 (ホツとして) あゝそうでしたかゝいやゝ僕ちゃんだったのゝブルブルブルゝそうでしゅかゝ僕ちやんでしたかゝ

関口さくら 女の子なんです

本間四郎 あゝしゅいませゝん

一同 ハハハハハハ

木下ウメ そんなで？学生さんはさつき何を言おうとしていたんだが？

本間四郎 あゝゝそうですねゝゝあのゝ笑わないでくれますか？

木下ウメ まあ

本間四郎 あなたも？

関口さくら はい：

本間四郎 実はまだ人には見せたことにはないのですが…(鞆から小冊子を取り出し) これなんです  
木下ウメ なんだ？これは？

本間四郎 これ、僕が書いた漫画なんです。実は僕は漫画を描いてまして、しかし、どうも自信がなくてで

すね、あくやっぱりやめておきましょうか

木下ウメ 男らしくズバツと出す！

本間四郎 はい！それでは！こちらをご覧ください！あく笑わないでくださいよ

関口さくら 漫画を見て笑うなど言われましても…

本間四郎 あく漫画は笑ってください。その辺は多少気を使ってですね。しかしその漫画を描いた僕の事は

笑わないで暖かく

木下ウメ 前置きが長い！

本間四郎 よろしくお願いいたします！

関口さくら はい

木下ウメ では

2人漫画を読みますが、本間四郎が落ち着かない

本間四郎 まく肩の力を抜いてですね

木下ウメ 落ち着いて読めねえよ！

本間四郎 ああ、すいません

2人 フフフフ

本間四郎 (落ち着きなく眺めている)

木下ウメ あら！いけない！私、隣町までお買い物に行かなくては！

本間四郎 え？

木下ウメ いい感じですよ、続きは帰ってから読ませて頂きますよ、それではお先に

関口さくら お気を付けて、(漫画に読み入っている)

木下ウメ はいはい

と、木下ウメが出て行く

関口さくら (読みながら) 学生さんが書かれたんですか？

本間四郎 え、ま、恥ずかしながら

関口さくら 絵も？セリフも？

本間四郎 え、ま、恥ずかしながら

関口さくら 将来は漫画家さんに？

本間四郎 夢ですがく恥ずかしながら

関口さくら 「少年倶楽部」などに載るといいですね

本間四郎 (突然) あれは！漫画じゃないです！

関口さくら え？

本間四郎 あゝすいません。しかし、しかし僕の漫画はそういうのではないんです。もっと夢があつてく優しくてくみんな笑顔で仲良しで。ゼロ戦や軍艦や兵隊さんやそういうので溢れかえった漫画ばかりじゃつまらないですよ！僕はそう思うんです！僕は子供たちに夢と希望と笑顔届けたいんです！恥ずかしながら

関口さくら 子供たちに夢と希望と笑顔ですか

本間四郎 あゝすいません。力が入ってしまいましたく

関口さくら す素敵だと思います…私は

本間四郎 ありがとうございます

関口さくら ここいう言い方は…よくないのかも知れませんが…

本間四郎 なんですか？

関口さくら わわたし、空襲が来るのを待っているんです

本間四郎 空襲を？

関口さくら この子と二人だけで家にいると、淋しくて不安で……空襲警報が鳴れば皆さん、ここに集まってくれます

本間四郎 そうですねえ

関口さくら ううれしいんです……一人じゃないってことが……あ、すみません……

本間四郎 あの……ご主人はどちらへ？

関口さくら ……知覧の飛行場にて出撃命令を待っています……

本間四郎 え？知覧ですか……

関口さくら はい……

本間四郎 あの……

関口さくら 私と、この子を守ってくれています……（漫画を読みながら涙が出て来る）

本間四郎 あの……（かける言葉がない）

関口さくら すいません……楽しんでます……面白いです……でも……

本間四郎 あの……ゆっくり……のんびり……読んでください……

関口さくら 本当に……楽しいです……

本間四郎 ありがとうございます……

遠くにB29の編隊の音  
空襲警報

本間四郎 あく今日も来やがったなあ

班長さんが入ってくる

増田菊子 警報発令！警報発令！

関口さくら ご苦勞様です

高倉百合子 (入ってくる) ご苦勞様です

増田菊子・本間四郎 お嬢様は？

高倉百合子 今日は女学校へ

増田菊子 そうですか

本間四郎 残念・・・

増田菊子 なんですか？

本間四郎 ご苦勞様です

木下ウメさんが駆け込んでくる

木下ウメ 学生さん！学生さん！

本間四郎 はい？

木下ウメ 木村さんが、手を貸してくっれてっ

増田菊子 何事ですか？

木下ウメ なんだかくどえらい大きな荷物でとにかく学生さん！早く早く！

本間四郎 はいっではっ

関口さくら お気をつけて

高倉百合子 どうしました？

木下ウメ いやあくそれが

そこに扉が開く

木村拓次郎と本間四郎が大きな荷物を担いで入ってくる。

その後ろに上戸椿さん、あやめさん親子がいる。

木村拓次郎 いやしくもくたまらなくて

上戸椿 なんだべかくこれっぽっちの荷物で大の男がだらしなかんべえ

増田菊子 何事ですか？

上戸椿 あゝあんたさんが班長さんだべかくなにしる意地の悪い、性格のねじまがった班長さんがおつて

く厄介やけど他の人はえらく親切で優しい人たちだべから心配いらねって

上戸あやめ こん人が言うもんだから

本間四郎 僕は何も言っていないじゃないですか

上戸椿・あやめ ガハハハハ

増田菊子 なんですか？この荷物は？

上戸あやめ あゝこれだべかオラの畑で取れた米やら芋やらかぼちややら

木下ウメ これ全部だべか？

関口さくら ヒエ

木下ウメ 商売でも始めるんだべか？

上戸椿 息子がくごつつ世話になった、上官の方の家さ届けるんだべさ

木村拓次郎 この方です！（高倉百合子を指す）間違いなし！



高倉百合子 いえ、そのようなことは……

上戸椿 こここここおこおこれをこれをお受け取りくだせえ(下がる)

高倉百合子 え？

上戸椿 うう受け取ってもらえねば！オラの気がすまねえ！

上戸あやめ 兄さん、いや、兄上様の命の恩人ですが！お納めくだせえ！

上戸椿 こんな田舎モノの作ったこんなものなんか、お口に合わねえとは思わずらぐお願いだす！

かどうか！

高倉百合子 命の恩人と？

上戸椿 へー一月前、息子が帰って参りました。変わり果てた姿で……オラは悪い夢でも、見てるんでねえ

かと思いましたが送り出した時の凛々しい姿の面影もなく……オラの胸さ走り寄ることもできず。

オラの体さ抱くこともできず……ただただオラの胸の中で涙を流す哀れな我が息子……

上戸あやめ なんだ兄さんが、いや兄上様がこう言ったんだす「オラが生きて帰って来れたんは、すべて高

倉中尉殿のおかげだと」

増田菊子 中尉殿の？

上戸椿 なんだす。右の足に弾を受け歩けんようになった息子を肩に担ぎ敵襲の最中をただひたすら、走り

続けて……

上戸あやめ 兄ヤンが「中尉殿もうここで、足手まといになりますから」と訴えると

上戸椿 「馬鹿者！私の部下に犬死はさせぬ」と

木下ウメ どちらかの劇団の方で？

増田菊子 さすが、中尉殿

上戸椿 息子は涙を流しながらオラにこういうんですが「高倉中尉殿がおらねば、オラは南方の地で野垂

れ死に腐りはて、二度と母ちゃんの所へは帰って来れなかつたと……」

上戸あやめ 「片足がないことが何ぞや！母にもらつた、こん体は傷ついたが心は中尉殿が守ってくれた」と

増田菊子 中尉殿……

木下ウメ 坊ちやま……ご立派なことで

上戸椿 オラたち親子にできることは、こんくらいの事しかないんですが！中尉殿の御恩に報いることの

できん役立たずの親子ですが……どうか、どうかお納めくださいませえ

上戸あやめ お納めくださいませえ

高倉百合子 お心ありがとうございます……現在息子は？

上戸椿 はい、中尉殿は敵襲を避けながらさらに南下しておると……

高倉百合子 無事ですか……

上戸椿 息子の知る限りでは

木下ウメ　ご無事なら大丈夫だべ

上戸あやめ　ただ：

木下ウメ　ただ、どした？

上戸あやめ　部下を亡くされたことを、たいそう悔やんでらしたとく

増田菊子　亡くされたと！

上戸あやめ　んだくいつも中尉殿にく金魚の糞みたいにくつついて逃げてばかりの二等兵だったとか

増田菊子　なんてことを！名を口にしないでください、うちの子に決まっています！

高倉百合子　奥様：

増田菊子　分かっていたんです。こうなることは分かっていたんです。覚悟は…覚悟はできて

上戸椿　それは、お気の毒なこつてく「綾瀬さん」でしたか

増田菊子　はい？なんですと？

上戸椿　亡くなられたのは綾瀬二等兵だと息子が、お悔やみもうしあげ

増田菊子　人違いです！やめてください！縁起でもない！

木村拓次郎　やけに自信持ってたなあく金魚の糞って言われて

本間四郎　間違いありません！つて

関口さくら　し

増田菊子 (気まずい) まあ〜

上戸椿 なんだか〜あれですけど〜どうかお納めくださいませ〜

上戸あやめ お納めくださいませ〜

高倉百合子 ではありがたく。いま兄ヤンは？

上戸あやめ え？あ〜田舎で食いもん作ってます！中尉殿の為にと

高倉百合子 そうですか

上戸椿 こんなつまらね〜もので〜もうしわけねえ

高倉百合子 いえありがたく

上戸椿 班長さん〜あなたの息子も中尉殿の？

増田菊子 兄と慕って行きました

木村拓次郎 でも金魚の糞

関口さくら し〜

上戸椿 んだば 大丈夫だあ〜

増田菊子 お国の為に露と散る

高倉百合子 やめましよう。

増田菊子 はい…

高倉百合子 光が届かない所です。母親が三人。息子を思う気持ちに違いなどないはず

上戸椿 んだな

高倉百合子 母親はただ、祈ることしか：

上戸あやめ んでもって、腹ごしらえもしてくだせえな

高倉百合子 ありがとうございます

ピアノが聞こえてくる

木下ウメ お嬢様！

本間四郎 お嬢様！お助けせねば！御免！

本間四郎 出て行く

高倉百合子 これは…申し訳ございません

増田菊子 いいんです。ご無事ならば

上戸あやめ あんれは？

関口さくら 中尉殿の妹君です。中尉殿の無事を祈って

上戸あやめ 美しかく響きだなあく心が洗われるようだべく

上戸椿 んだなあく

しばし、ピアノに聞き入るそれぞれ

本間四郎 (叫び声) おじようさまくおじようさまく

上戸あやめ あれは？

木村拓次郎 あれはただの馬鹿です

上戸椿 んだなあくまったく場違い

一同に微笑み

空襲警報解除の音

暗転

第四場（夏の日の陽炎）

バルコニーからみんなの楽しそうな声。

関口さくらが赤ちゃんをあやししながら、顔を出して

関口さくら 木村さんに学生さん！銀シャリですよよくなりますよよ

下に木村拓次郎と本間四郎

木村拓次郎 いいじゃないのこれ（と小冊子を出す）

本間四郎 いや〜これは、これは〜お恥ずかしい

木村拓次郎 恥ずかしいことはない。人間ひとつは何か取り柄があるものだから

本間四郎 それは褒めてくださっていたらいいので？

木村拓次郎 もちろん！君は真っ白な紙に命を吹き込むことができる！素晴らしい！題名がいい！「大福飯面ロク参

上の巻」なんだかさっぱりわからん

本間四郎　まあゝ

木村拓次郎　最初のページがいいですねえ

本間四郎　そうですか？

木村拓次郎　山の頂に立っている一人の若き男！その凛々しい後姿！風になびくマント！じゃじゃゝん振り返って

顔はダイフク！その名は大福仮面！なんじゃこりゃ？

本間四郎　まあ僕は子供たちに楽しんで書いてますから

木村拓次郎　まゝ大福でいいだろう！味噌汁仮面なんて書けないもんなゝ流れちゃって、納豆仮面はどつだ？嫌だね

えゝネバネバしちゃって

本間四郎　うわあああ！

木村拓次郎　なんだよ

本間四郎　いま！なんと言いましたか！

木村拓次郎　なに？

本間四郎　いっただきまゝす！

木村拓次郎　なんだ？

本間四郎　納豆仮面！いいです！納豆仮面！うわああゝ悪役をスイトン仮面から納豆仮面に変えましょう！そう

だああゝそれだああゝちよつと失礼しますよ

本間四郎 ノートを奪い一心不乱に書き始める

関口さくらが握り飯を持って現れる

関口さくら あれ？どつされたんですか？

木村拓次郎 只今漫画家先生は執筆中でございます。

関口さくら 凄い勢いですね、召し上がります？

木村拓次郎 あ、これはかたじけない。

関口さくら 木村さんも読まれたんですか？

木村拓次郎 え、ま、

関口さくら 素敵なお話ですよ

木村拓次郎 素敵？大福が？

関口さくら うちの子が大きくなったら見せてあげたいです

木村拓次郎 大福をですか……？

関口さくら 夢と希望に溢れていて、素敵なお話だと思います。

木村拓次郎 ま、そうですね……？



関口さくら いいです！こっちの方がいいです！納豆仮面只今参上ですよ

本間四郎 ハハハハよしよし「大福仮面！この攻撃に耐えられるから必殺ネバネバ手裏剣！」シユシユシユユユ

ユユユ

本間四郎がいつの間にか漫画の世界を実演して見せている

本間四郎 (大福仮面になって)「んんん〜なあんのこれしき〜あ〜しかし〜体がア〜体がネバネバしてきた〜」

(納豆仮面)「ガハハハハハハさらばだ！大福仮面！これからは悪の帝王納豆仮面がこの世を支配する！

ガハハハアハさらばじゃああ〜」

関口さくら 終わってどつするんですか

本間四郎 あ〜そうかあえ〜ととえ〜ととえ〜ととそれじゃ、そこに！大福仮面の親友「ミタラシ仮面」が現れる

木村拓次郎 納豆にミタラシじゃあベトベトじゃないか？

木下ウメ そこに！恋人の桜餅ちゃんが助けに現れる！

本間四郎 来た！それです！悪の力に対抗するには「愛の力」が必要です！

(桜餅ちゃん)「大丈夫〜しっかりして〜大福仮面〜」

(大福仮面)「あ〜愛しの桜餅ちゃん！」



木下ウメ 大福と桜餅の恋の行方も気になる所ですね〜

本間四郎 気になりますねえ〜書き加えましょう〜

(桜餅ちゃん) きゃ〜おやめになつて〜

(悪代官) よいではないか〜よいではないか〜

(桜餅ちゃん) お戯れをお代官様〜

(悪代官) ウッシシシシ〜

ここで帯をグルグルグル〜と

(桜餅ちゃん) アレ〜〜〜

一同の冷たい視線を感じて我に返る

本間四郎 ええええ〜冗談ですよ〜冗談! だって僕は子供たちの夢と希望の星なのですから!

ポーズを決める本間四郎

暗転



第五場（夏の日の陽炎）

前場から続く空襲警報の中。

お鍋とオタマが銅鑼の代りで木村拓次郎のセリフから

高みにマントを翻した大福仮面と納豆仮面

木村拓次郎 ジャンジャンジャン〜ン！いま山の頂に立つあの男！そうだ！恐れないで！みんなの為に！愛と勇

気だけが友達さ！その男の名は！「大福仮面！」ジャンジャンジャン！（大福仮面振り返る）今もどこ

かで助けを求めている人がいる！はい！奥様！セリフです

高倉百合子 はい。きやあ助けて大福仮面ゴホンゴホン

木村拓次郎 ま〜いいや〜つづけて

高倉百合子 すいません

本間四郎 まて〜やはり貴様だったのか！納豆仮面！

「ジャンジャンジャジャ〜ン」

関口さくら納豆仮面に明かり

関口さくら ハハハ粘りが身上でねえ〜大福仮面！覚悟！必殺ネバネバ手裏剣！シユシユシユシユ

本間四郎 ん！何のこれしき！あ〜しまった〜体があ〜ネバネバしてきたあ〜

関口さくら さらばだ！大福仮面！これからは、悪の帝王！納豆仮面が、この世を支配する〜ハ〜ヒフ〜ホ〜

本間四郎 あ〜ダメだ〜あ〜体が〜ネバネバだあ〜もはやこれまでかあ〜

木村拓次郎 はい！ここで！桜餅ちゃん登場！

桜餅ちゃんのテーマが流れ。

桜餅ちゃんの扮装をした、木下ウメさんが登場

木下ウメ (やる気満々) しっかりして大福仮面！あなたは！子供たちの夢と希望の星なのよ

本間四郎 (明らかにやる気をなくしている) あああ〜愛しの桜餅ちゃん

木下ウメ さあ！大福仮面！立つのよ！立ち上がって！あなたと私の愛の力で悪の帝王納豆仮面を倒すのよ〜

本間四郎 あ〜力が湧いてきて〜これが〜これが〜愛の力なのだあ

木村拓次郎 だめだめ！全然ダメ！はい、集合！

明かりが元に戻る。  
防空壕の中。班長が縛られている

木下ウメ どうもくすみません

木村拓次郎 ウメさんはいいですよよく頑張ってます。愛が見えます

木下ウメ ありがとうございます

木村拓次郎 問題はお前だよ

本間四郎 お言葉を返すようですが

木村拓次郎 なに？

本間四郎 そもそも約束が違うのではないのでしょうか？僕はですねえ、お嬢様が桜餅ちゃんをやっていただけというから、頑張って台本をかけたわけですよ、それなのに、

木村拓次郎 仕方がないだろう。お嬢様は学校行ってるんだから。それに見て見なさい！まく多少は痛んではいますけど、美味そうな桜餅じゃないか？

本間四郎 腐ってますよ

木下ウメ なんだと！この野郎！

本間四郎 冗談ですよ

木村拓次郎 とにかく気持ちがない！どう思いますか？班長殿？

増田菊子 んん

木村拓次郎 よし、続きをやりましょう！あ！ご苦労様でした鏡餅ちゃん。

木下ウメ 桜餅です

木村拓次郎 失礼！それでは続き行きます！見せ場ですよ！「対決！大福仮面对納豆仮面」位置について！よくい

ん！

ジャンジャンジャン

本間四郎 「納豆仮面！その子を放すんだ！」

関口さくら 「何を言うかああ！大福仮面！この子がどうなってもいいのかああ」

木下ウメ 「助けて！大福仮面！もお腹がすいて死にそう」

関口さくら 「ガハハハハそれじゃ！納豆を食べるかあ」

本間四郎 「駄目だあ！納豆の誘惑に負けるな！今すぐ大福を食べさせてあげるからあ！え！こうなったら！必

殺！ツブツブミサイル！ツブツブツ

関口さくら 「なにを！こしやくなあ！ネバネバ地引網え！いい！」

と、戦いが始まる！壕を狭しと駆け回り逃げ回り、笑い合い

騒ぎが最高潮に達した時

壕の扉が開かれる。

そこには厳つい憲兵。薩摩芋太郎。ボタン！と扉を閉める。騒ぎが収まる。

薩摩芋太郎、威圧感のある目で壕を見回す。一同静止

薩摩芋太郎 (本間四郎の扮装に気が付き・怒り心頭) キキ！貴様は！

本間四郎 は？はい？

薩摩芋太郎 その恰好は？

本間四郎 えくそのく

薩摩芋太郎 気を付け！質問に答えろ！貴様のその恰好はなんだと聞いておる！

本間四郎 はい！その大福仮面であります！

薩摩芋太郎 なんじゃ？

本間四郎 ですから。大福仮面であります！あちらが納豆仮面！

薩摩芋太郎 納豆？おお納豆！

関口さくら どうでもです

本間四郎 もひとつおまけに鏡餅ちゃん

木下ウメ 桜餅です！

薩摩芋太郎 (怒りもつと心頭) ならば！ならば！ここに並べ！大福！納豆！鏡餅！

木下ウメ 桜餅です

薩摩芋太郎 敵は鬼畜米英なるぞ！大福で勝てるか！納豆で勝てるか！鏡餅で勝てるか！

木下ウメ 桜餅です！

薩摩芋太郎 この壕の責任者は？

一同の視線が班長へしかし班長から木村拓次郎へ

木村拓次郎 えく私だが…なにか？

薩摩芋太郎 前へ出ろ！

木村拓次郎 貴様！上官に向かってその口の聞き方はなんだ！たかが上等兵の分際で大佐に向かって！歯を食いし

ばれ！

薩摩芋太郎 申し訳ございません！

木村拓次郎 戦地だけが戦場だとも思っておるのか？戦地へ送り出す若き志士たちを育て支えるのがこの内地の

務め

薩摩芋太郎 おおお恐れながら大佐殿！この若造は、この時局に大福などと

木村拓次郎 大福すなわち大統領！分かるか！

薩摩芋太郎 はい！

木村拓次郎 この大福を見てみる！これぞ我が皇軍の晴れ姿である！どうだ！

薩摩芋太郎 お勇ましい姿であります！

本間四郎 うそ

木村拓次郎 この勇ましくも滑稽な姿こそが、戦争なのだ！戦場とは何ぞや、皇軍とは何ぞやと分かりやすく説明しているところである！出て行くか黙って見ているかどちらかにしろ！

薩摩芋太郎 恐れながら拝見させていただきます！

一同 え

木村拓次郎 見てるの？

薩摩芋太郎 はい！勉強させていただきます！

木村拓次郎 よし！そこに座れ！

薩摩芋太郎 はい！ありがとうございます！（腰を下ろし、班長を見つける）たたたたた大佐殿！！この女は？

木村拓次郎 うえ？非国民だ気にするな

関口さくらの子供が泣き出す

関口さくら あれあれ

木村拓次郎 上等兵

薩摩芋太郎 はい！

木村拓次郎 代われ！

薩摩芋太郎 はい？

木村拓次郎 お前が納豆をやれ

薩摩芋太郎 はい？

木村拓次郎 命令だ！お前が納豆をやれ！

薩摩芋太郎 はい！

木村拓次郎 気を付け！

薩摩芋太郎 はい！

木村拓次郎 (関口さくらの納豆を外し、薩摩芋太郎に被せる。一同笑いを堪えている) よし！

薩摩芋太郎 似合いますでしょうか？

木村拓次郎 似合う！

薩摩芋太郎 ありがとうございます！

木村拓次郎 え、これからどうなるのかなあ？なあ？

本間四郎 その、大福についてであります・

木村拓次郎 そうだ大福についてだなく大福つまりは我が国の誇り高き精神についてだがあゝ

空襲警報解除のサイレンが鳴る

薩摩芋太郎 解除であります！大佐殿！

木村拓次郎 上等兵！規律違反の懲罰だ！

薩摩芋太郎 え？規律違反でありますか！

木村拓次郎 このセリフを今度の空襲までに覚えて来い！

薩摩芋太郎 はい！ありがたき幸せであります（仰々しく受け取る）

木村拓次郎 貴様が納豆仮面をやれ！

薩摩芋太郎 はい！喜んで！

木村拓次郎 よし！命がけでやれ！

薩摩芋太郎 はい！喜んで！

暗  
転



本間四郎 ん！何の！何のこれしき！ああ体がネバネバしてきた…

薩摩芋太郎 いや！さらばだ！さらばだ嗚呼嗚く大福仮面！これからは、悪の帝王このこのこの納豆仮面が

あああああこの世を支配するくくくいよ！薩摩屋！

本間四郎 あくダメだくあく体が腐ってきたあくあくもはやこれまでかあく

木村拓次郎 はい！ここでく桜餅ちゃんが登場

桜餅ちゃん、登場の音楽

桜餅ちゃんの扮装をした、小百合お嬢様が登場

高倉小百合 しっかりして！大福仮面！あなたは子供たちの夢と希望の星なのよ

本間四郎 (やる気満々) あああく愛しの桜餅ちゃん！

高倉小百合 さあ、大福仮面！立つのよ！立ち上がって！あなたと私の愛の力で悪の帝王納豆仮面を倒すの

よ！

本間四郎 ああ力が湧いてきて！これが！これが愛の力なんだ！さあ、かかっく

薩摩芋太郎 なくくくあにくくくをくくしやくくなああああああああく大福仮面！この世界を支配するのは！

支配するのはわあああく支配するのはくくこの(チョン) なつとうくくくかくくくめくくくんく

くくいよ！薩摩屋！

木村拓次郎  
ダメダメ全然ダメ！

高倉小百合  
すいません

木村拓次郎  
お嬢様は素晴らしいですよ。純情可憐な桜餅ちゃんを感じがよく出ています

高倉小百合  
ありがとうございます

本間四郎  
よかったですね

高倉小百合  
ありがとう

木下ウメ  
(2人の間に入って) 私語厳禁です

本間四郎  
：

薩摩芋太郎  
では何がダメなのでしょう？

木村拓次郎  
お前だよ！

薩摩芋太郎  
自分の何が問題なのでしょう？

木村拓次郎  
問題だらけだよ！どこで覚えたの？その芝居？

薩摩芋太郎  
祖父が芝居道楽でして、自分が小さい時から芝居小屋に連れて行ってくれましたあ

晩酌の時に見よう見まねで「赤木の山もこよいかぎり」なんてやりますと、お小遣いももらえまして、体に染みついたこの芝居心！どこの誰にも負けわあああ〜し・ません〜！！いよ！

薩摩屋

木村拓次郎 その「いよ！薩摩屋！」やめろ！

薩摩芋太郎 隅から隅までくもうしわけくくくございまああくくせんん

空襲警報解除のサイレン

木下ウメ ジャンジャンジャン！本日はこれまで！

暗転

第七場 (夏の日の陽炎)

夕焼けである。

ピアノの調べが聞こえてくる。

木村拓次郎と本間四郎が静かにピアノの音色に耳を傾けている。

本間四郎 (うっとり) 美しいですね

木村拓次郎 あゝ美しい、乙女が奏でるこの純情な響き、しかし、なぜ、お前がここに

本間四郎 お邪魔ですか？

木村拓次郎 お邪魔ではないが、多少目障りだなあ

本間四郎 あゝ

木村拓次郎 なんだ？

本間四郎 謎なんです

木村拓次郎 なにが？

本間四郎 あなたは、いったい何者なのかと……

木村拓次郎 わたしが？

本間四郎 人には誰でも過去があります

木村拓次郎 私の過去に何か興味でも？

本間四郎 興味というかなんというか、なんだか何かに苦しんでいるようにも見えて

木村拓次郎 文化系の学生の考えそうな疑問だなすべての事柄にドラマを見出そうとする。

しかし、それが君の才能だ、それが君の若さの証だ。大切に育てたまえ

本間四郎 何か話したくないわけでも？

木村拓次郎 話したくないのではない。話すべきことがないんだよ

本間四郎 しかし

木村拓次郎 やめないか。ピアノの旋律が乱れてしまう

本間四郎 そうですね…しかし、僕はあなたにお礼を言わなくてははいけませんから

木村拓次郎 礼？

本間四郎 納豆仮面の事です。あの悪役は思いつきませんでした。悪役のイメージが膨らむことであの作品

はもつともつと膨らんでいけると思うんです

木村拓次郎 私は何もしていない。礼ならあの芝居の臭い上等兵に

本間四郎 ありがとうございます

木村拓次郎 大いに膨らませたまえ

本間四郎 膨らませられるかどうか…

木村拓次郎 どうした？

本間四郎 来ました…

木村拓次郎 来たか…

本間四郎 召集令状が…来ました…明朝出発です…ですから続きを書けるかどうか…

木村拓次郎 お前が行くようでは終わりだな…負け戦か…

本間四郎 そんなこと言っっては

木村拓次郎 人にはそれぞれ向き不向きがある。お前には向かん。戦地で一番足手まといになる輩だ。

本間四郎 まあそうですか

木村拓次郎 銃を持って戦うもの、ペンをとって漫画を描くもの。働き所働き時がある。お前みたいな輩が戦

うようでは…

本間四郎 あなたは…もしかして…

木村拓次郎 この足に戦地で弾を受けた…

本間四郎 そうだったんですか

木村拓次郎 この胸に受けていたならば、どんなに楽だったか…

本間四郎 そんな…

木村拓次郎 おめでとうございますと…言うべきかなのか…

本間四郎 できれば！

木村拓次郎 (最敬礼) おめでとうございます！

本間四郎 はい！ありがとうございます！

木村拓次郎 武運長久を！（敬礼）

本間四郎 (勢いに押されて) おおおお

木村拓次郎 おい

本間四郎 はい！

木村拓次郎 死ぬなよ…

本間四郎 はい！

木村拓次郎去る。本間四郎一人

起床ラップが鳴る。旅立ちの朝に変わる。

美咲町町内の皆さん。隣町の皆さん。元気に現れる

一同 ♪トントントンカラリント隣組く障子を開ければ顔馴染みく回しておくれよ回覧板く

教えられたり教えたり♪

一列に整列！高みに隣町出征兵士。氷川きよ太

その横に落ち着かない本間四郎がいる。

氷川きよ太 (やけに熱い演説) 皆さん！おはようございます！

一同 おはようございます！

氷川きよ太 本日は！私ごときの為にお集まりいただきありがとうございます！御国の為！この命捧げます！私が戦地に赴き！敵を前にした暁には！必ずや敵を撃破し！手柄を立て！故郷に錦を飾りたいと思っております！私！氷川きよ太！我がこの小さき命を持って！御国の為！天皇陛下の為！ご奉公させて頂きます！それでは皆様！行つて！参ります！

一同 ばんざーいばんざーい

氷川きよ太 あああああありがとうございます！！！！(本間四郎に席を譲る)

本間四郎 (自分に集まる視線に、明らかに戸惑った表情、白い歯を見せながらポツポツト話し出すが……) あ

くどうも、おはようございます……ああの～ですわ～なんと言ったらいいのやら……僕は見ての通りですわ、あまり戦地に向いているとは言いがたく……

増田菊子  
なんということを！

本間四郎  
僕は実は漫画を描いたりしているのが好きなものでしてハハハハ……

一同  
(疑問と怒りが入り混じったような視線を一斉に)！

本間四郎  
あ～あの～だから僕は考えたんです。僕なりに色々……でも僕には国を守るなんて、そんな大それたことが出来るわけがなくて……空襲は怖いし、戦地なんてもつと怖いんでしょうねハハ……でえ僕は考えたんです。僕なりに一生懸命、僕は何の為に戦えるのかと……僕には僕には好きな人がいます！

増田菊子  
あ～もうだめ～めまいが～

本間四郎  
ま～僕の思いは一方通行なんです……あなたの為に戦ってもいいですか！あなたが空襲で辛い思いをしているのならば、その苦しみを和らげてあげたい！あなたが、いつも楽しくピアノを弾ける、そんな世の中を作るために僕の力が何かの足しになるのならば、僕は命を懸けて戦います！もし！もしです！お兄様ではなく、僕の為にその指先がピアノの鍵盤をたたいてくれるのであれば！その美しい旋律が僕の耳に届くことがなくても！僕は死んでも悔いはありません！

高みに本間四郎。下に高倉小百合。明かりが絞られていく

本間四郎 この詩をあなたに捧げます

「おおこの身とこの命よ

幾たびも思い悩むこの疑問

信仰のないものが長蛇の列をなし

都会は愚か者で溢れんばかり

何処に美点があるというのか」

本間四郎の上に高倉一範中尉

高倉一範 「おおこの身とこの命よ。答えはひとつ」

本間四郎・高倉一範

「君がそこにいるということ

命が息づき、この身がまさしく存在するということ

壮麗な芝居が続けられ、

君もそこに一編の詩を寄せることが出来るということ……」

高倉小百合 お兄様……

汽笛が鳴る！

明かりが元に戻り、高倉一範中尉消える

本間四郎 僕を！忘れないでください！それが僕の生きていた唯一の証です！

一同 ばんざーいばんざーい

本間四郎 さらばです！僕は行きます！あなたに出会えたことが僕の幸せでした！

汽車が動き出す

一同 ばんざーいばんざーい

暗転

第八場 (夏の日の陽炎)

薄暗い中。音楽が入る

木村拓次郎が一人。壕の中に。

扉が開き ひとりの軍人の人影

木村拓次郎 大場か？

大場 (敬礼)

木村拓次郎 (敬礼)

大場、消える。明かりと音もいつもの壕の中に。

再び、扉が開き一人の男の人影。

コソコソと辺りを伺いながら、壕の中に入ってくる。

木村拓次郎 おい！

本間四郎 うわ！すいません！

木村拓次郎 お前！

本間四郎 しばし匿ってくださいよ！

木村拓次郎 まさか！お前！

本間四郎 誤解しないでください！けして逃げてきたわけではありませんから

木村拓次郎 じゃあどうしたんだよ！

本間四郎 それがですねえ！箱根の手前で汽車が止まってしまいました！と恥ずかしながら

木村拓次郎 帰って来たのかよ？

本間四郎 そういうことなんですハハハハハ

木村拓次郎 なに笑ってんだよ！

本間四郎 は？

木村拓次郎 まったくやだねったらやだね！聞こえるだろう？

本間四郎 ピアノですか？

木村拓次郎 そうだよ、悲しげではないか？

本間四郎 そうですねえ

木村拓次郎 お前の為に弾いているのかもしれない……

本間四郎 そうなんですか！

木村拓次郎 かも知れず……だが、どうしたことでしょうか？

本間四郎 どうしましようか???

木村拓次郎 間が悪い！悪すぎる！朝だよ！朝に出て行って昼に帰って来るなよ！

本間四郎 しょうがないじゃないですか！箱根の手前で汽車が止まってしまってますねえ

木村拓次郎 箱根なら温泉ぐらいあるだろうのんびりして来いよ！お前がさあ死ぬって言うから、お嬢様もあそこまで、付き合ってくれたんだよ！死ぬって言うから

本間四郎 朝はそのつもりでしたよ

木村拓次郎 だったらせめて三日は空けるよ！朝の昼だよ！どうするんだよ！

本間四郎 どうするって言われても！

木村拓次郎 感動しちゃったんだよ！涙が頬を……その余韻に浸る間もなく何してくれてるんだよ！あくあ

本間四郎 あくどうしたものでしょうか？

木村拓次郎 そうだなあく純情な乙女心を大切に思うならば！

本間四郎 ならば？

木村拓次郎 まず、隠れろ！

本間四郎 ええ

木村拓次郎 じつとしてろ、隠れて隠れてそくそくと出て行け

本間四郎 僕は生きて帰って来たんですよ。ちょっとは喜んでくれても

木村拓次郎 よくよく「はじめてのおつかい」じゃないんだよ。「あなたを守るために僕は死にます！」とまで言った男がだよ！大きな間違いを起こるかもしれないと予感させた男がだよ。何をニヤニヤ間抜け面下げて

本間四郎 あくやだねったらやだねく

木村拓次郎 やだよ！お前が！

空襲警報が鳴る

木村拓次郎 これまた、最悪のタイミングで空襲だよ

本間四郎 どどどどうしましょうか？

木村拓次郎 出て行くしかないだろう

本間四郎 空襲ですよ！

木村拓次郎 仕方ないだろう

増田菊子の声が聞こえてくる

増田菊子 (声) 警報発令く警報発令くさあ急いでください

本間四郎 うっわああ

増田菊子 お嬢様、足元に気を付けて

本間四郎 おおおおおおお嬢様！

木村拓次郎 早く隠れろって！

本間四郎、右往左往しているが、仕方なく大福仮面を被り隠れる。

班長、奥様、高倉小百合、木下ウメ、関口さくらがそれぞれ入ってくる。

一同、朝の余韻を引きずって元気がない

木村拓次郎 どうも、皆さん？どうしましたかな？

増田菊子 淋しいものですね

木村拓次郎 はい？

増田菊子 淋しいものですね…若い人がまた一人

木村拓次郎 え？あくあいつですかくあいつはまくなかなか愉快な

増田菊子　もう二度と会えないのかも知れないなら

木村拓次郎　そんな大げさな

増田菊子　変な意地など張らずに「素敵なお話ですね」と正直に伝えてあげればよかったですね

木下ウメ　もう遠くへ行ってしまったのでしょうか？

木村拓次郎　意外と近くにいるかも知れませんよ

高倉小百合　あの方も…お兄様と同じ詩を私に読んでくださいました…

木村拓次郎　まゝパクリですよ

木下ウメ　お嬢様、気を落とさずに…

木村拓次郎　そうですね！もゝもつたいないっですから

高倉小百合　胸が苦しいのです…こんな気持ちになったのは初めてです

関口さくら　お嬢様、それは初恋ですよ

木村拓次郎　余計なことを言うな！

本間四郎　（大福仮面が飛びあがって狂喜乱舞）

高倉小百合　ご無事で再びお目にかかれるでしょうか…そして私の前で、あの美しい詩を読んでいただけると

しょうか…

関口さくら　信じるしかないですよ、お嬢様。信じて祈って待っているしか…

本間四郎 (狂喜乱舞)

木村拓次郎 (本間四郎を叩く) 祈りますかくそうですね〜みんなで祈りましょう！それでは一同黙祷

高倉小百合 黙祷なんてやめてください

木村拓次郎 あ〜すいませんすいません。それでは祈りましょう！それぞれの大切な人を思い。では！

一同黙祷

木村拓次郎 (大福仮面にキック) ジツとしてろ！このバカ！

本間四郎 きき聞きました？初恋ですつて〜初恋〜ラララララララ

木村拓次郎 静かにしてろ！

高倉小百合 届いたかしら、私の祈りは…

本間四郎 (うんうんうんうん)

高倉小百合 お兄様の所まで

本間四郎 (ずっこける)

そこに薩摩芋太郎が扉を開けるが、納豆仮面の藁が大きすぎて入らない。

薩摩芋太郎 大佐殿！大佐殿！

どうにか入ってくる。

薩摩芋太郎 大佐殿、台詞を完璧に覚えてまいりました！

木村拓次郎 それはご苦労

薩摩芋太郎 では！どの場面から始めましょうか！

増田菊子 もういいのですよ

薩摩芋太郎 (臭い) もう、いいとは？

増田菊子 主役がないのですから

薩摩芋太郎 主役ならここに！

一同 (大きなため息をつく)

薩摩芋太郎 何かあったのですか？大佐殿？

増田菊子 やりましょう！

薩摩芋太郎 はい？



木下ウメ 問題というか…

増田菊子 よろしいですか！

一同 はい…

木村拓次郎 それでは台本を

増田菊子 結構です！聞き覚えておりますから！

木村拓次郎 これは、班長殿！それでは、どの辺りから稽古を

増田菊子 頭から参ります！

木村拓次郎 はい、それでは、位置について

それぞれ位置につく

関口さくら ジャンジャンジャン〜ン！いま山の頂に立つあの男！そうだ！恐れないで！みんなの為に！愛

と勇気だけが友達さ！その男の名は！「大福仮面！」ジャンジャンジャン！

（大福仮面振り返る）今もどこかで助けを求めている人がいる！

木下ウメ きゃ〜助けて〜大福仮面！

増田菊子 そこ気になりますね〜もつと「助けて欲しい」という緊迫感みたいなものが欲しいんです

木下ウメ え？

関口さくら ダメだし？って

木下ウメ すいません。

増田菊子 では、もう一度

木下ウメ (多少緊迫感を出しながら) きゃあゝ助けてゝ大福仮面

増田菊子 (すごく臭い。宝塚調) まで！やはり貴様だったのか！納豆仮面！

薩摩芋太郎 (負けていないドサ芝居) オゝゝホホホオホゝ粘りが！いよ！身上でねええゝいざいざいざ！

大福仮面！覚悟ゝゝゝゝ必殺ネバネ

増田菊子 あゝああ体がゝ体が腐ってきたゝ我が命運もこれまでかゝ神よゝおゝ神よゝ

木村拓次郎 はい！桜餅ちゃん！

高倉小百合 (明らかに不満)

増田菊子 遅い！桜餅！

高倉小百合 (仕方なく) しっかりしてゝ大福

増田菊子 (容赦しない) 声が小さい！

高倉小百合 しっかりしてゝ大福仮面あなたは子供たちの夢と希望のほゝ

増田菊子 ああああああゝ愛しのゝ愛しのゝオスカゝゝル！

本間四郎 (堪らず立ち上がる) このへたくそ!

一同呆然

本間四郎 あ!あの~~~~その~~~~大福仮面!只今参上~~~~なんちやつて

暗転

第九場（夏の日の陽炎）

月夜

外に木村拓次郎と本間四郎

本間四郎 （バルコニーを見上げながら）今夜は聞こえませんか？

木村拓次郎 なにが？

本間四郎 ピアノです

木村拓次郎 お嬢様の？

本間四郎 はい。どうしたんでしょうか？

木村拓次郎 どうもこうも、お前のせいじゃないかよ

本間四郎 ……やっぱりそうですか…

木村拓次郎 決まってるだろう

本間四郎 はくどうも上手くいかないものですね…

木村拓次郎 間が悪いんだな。お前さんは。今度はこっそり出て行けよ、臭い演説も二度目には嫌味に聞こえるからな

本間四郎 そのつもりです…あの〜

木村拓次郎 なんだ？

本間四郎 足は痛むんですか？

木村拓次郎 痛まんよ…心は痛むけどな

本間四郎 なぜ、戦わなくてはならないのでしょうか？

木村拓次郎 …

本間四郎 なぜですか？なぜ戦わなくてはならないのですか？

木村拓次郎 …

本間四郎 なんですか？

木村拓次郎 お前は、何の為に漫画を描いている？

本間四郎 えっ？

木村拓次郎 お前さんなりの戦いではないのか？子供たちに夢と希望と笑顔を届けるための

本間四郎 そんな立派なものでは…

木村拓次郎 誰も立派な戦いなどしとるものはおらんよ。自分を守るため愛するものを守るため。

お前さんも口にしていたじゃないか「あなたを守るために僕は戦います！」

本間四郎 あれは…

木村拓次郎 嘘か？

本間四郎 いえ

木村拓次郎 そういうことだ。それ以上でもそれ以下でもない

本間四郎 そうですか…

木村拓次郎 静かな月の夜だな…今夜は

本間四郎 そうですね。

薩摩芋太郎が走ってくる。

本間四郎 おく納豆仮面！

薩摩芋太郎 うをおお！出たなくく大福仮面！

本間四郎 なにしてる？

薩摩芋太郎 あゝこの辺りに高倉中尉殿のご自宅があると伺ってきたのですが

本間四郎 ここだよ

薩摩芋太郎 うわ！ここでしたか！私、三度もこの前を走り抜けてしまいましたか？ここでしたか

本間四郎 どうしたの？

薩摩芋太郎 広報です

本間四郎 これはこれは、ご苦労様です

薩摩芋太郎 戦死広報であります

本間四郎 えっ？

木村拓次郎 ……

薩摩芋太郎 はい！明日の朝刊掲載予定ですが「大本営発表であります！陸軍第三十六師団高倉中隊南方にて

玉砕！」

本間四郎 ……そんなあ〜

薩摩芋太郎 高倉中尉殿玉砕であります！

本間四郎 玉砕って…

薩摩芋太郎 それでは失礼いたします

木村拓次郎 待て！明日の朝まで待ってやれんのか？

薩摩芋太郎 はい？

木村拓次郎 明日の朝まで待ってやれんのか…

薩摩芋太郎 しかし！御国の為にお勇ましくも！

本間四郎 ちくしよ〜！

本間四郎、叫びながら怒りに任せて薩摩芋太郎に掴み掛る

本間四郎

ちくしよちくしよ

薩摩芋太郎

(何が何だか分からず) なんですか？なんですか？

木村拓次郎が本間四郎を引き離し。

本間四郎

離してください！離してください！(薩摩芋太郎に向かおうとする)

木村拓次郎

(本間四郎をぶん投げる)

本間四郎

(立ち上がり木村拓次郎に向かう) ちくしよ！

木村拓次郎

(本間四郎を受け止め、投げる)

本間四郎

(再び立ち上がり、木村拓次郎に向かう) ちくしよ！！！！

木村拓次郎

(体をかわして)

本間四郎

(勝手に転げる) ちくしよ (再び木村拓次郎に向かう)

木村拓次郎

(受け止め) こんな弱腰で！貴様に誰が守れるというのか！(投げる)

本間四郎 (再び立ち上がり、渾身の力を込めて木村拓次郎に向かう) あくくくくくああああああ

木村拓次郎 堪えきれずに 倒れる

薩摩芋太郎 あああ大佐殿!

木村拓次郎 情けない……この足が!この足が!役に立たん!

本間四郎 ……

薩摩芋太郎 ……

木村拓次郎 ……

本間四郎 ……

薩摩芋太郎 ……

木村拓次郎 ……高倉一範という教え子がいた。

本間四郎 教え子?

木村拓次郎 素直な目をした真っ直ぐな男だ

本間四郎 高倉ってもしかして…

木村拓次郎 高倉一範お嬢様の兄貴だ

本間四郎 教え子……

木村拓次郎 私は見て見たかった……高倉が命を懸けて守るべきものであると、私に語ったこの町を……

明かりが変わり。高みに（バルコニーに）光と共に高倉一範中尉

高倉一範 少佐殿！明朝南方への配属命令が出ました。今生のお別れであります！

木村拓次郎 高倉は真っ直ぐ私を見て

高倉一範 「何を持って正義とし、何を持って悪と成すか、などと言うことは、私ごとき小さき者には分かりません。しかし！愛するものを守るためであるならば！それは正義であると私は信じられます！」

木村拓次郎 高倉！

高倉一範 はい！

木村拓次郎 正義とは我が国にある！

高倉一範 恐れながら！少佐殿！我が正義はわが心の中にあります！

木村拓次郎 ……

高倉一範 「おおこの身とこの命よ……

答えはひとつ、君がそこにいるということ

命が息づき、まさしく、そこに、存在するということ

壮麗な芝居が続けられ、君もそこに一編の詩を寄せることが出来るということ……」

……

木村拓次郎

高倉

自分は母を妹を愛しております！私を育て見守り育んでくれた町の人たち、美しい我が故郷を愛しております！自分を自分たらしめる「君」の為に、我が心の中の正義を信じ、自分行つて参ります！（敬礼）

木村拓次郎

（敬礼）高倉……

高倉中尉 あの世界へ消える。 明かりが元に戻る

木村拓次郎

目の前に高倉が座っていた。その横に西島、その後ろ笹本、その後ろに大場……

そして私が教えた……「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪過の汚名を残す勿れ……」「はい」

と奴らは答えた……「はい」と……私が彼らを散らせた……なぜ、なぜ私だけが生き恥をさらす……

本間四郎 ……あなたのせいでは……

木村拓次郎 ……

本間四郎 (耐えきれない) ああああ~~~~も~~~~だつて!こんな時代なんです!仕方ないじゃな

いですか!こんな時代に生まれてきちゃったんで

木村拓次郎 「こんな」とはどういう意味だ?

本間四郎 え?

木村拓次郎 こんな時代とはどういう意味だと聞いている。こんな時代とは、どういう意味だと聞いている!

本間四郎 いえ:あの

木村拓次郎 答えろ!こんな時代とはどういう意味だ!

本間四郎 ですから:あの:

木村拓次郎 貴様ごときに「こんな」などと蔑まれるものを守るために命を散らせたのか!高倉は!

本間四郎 そそ、そういう意味ではありません

木村拓次郎 分かったような言い方をするな!

本間四郎 すいま...

高倉小百合 もう:~やめてください:~

木村拓次郎 :~

本間四郎 お嬢様:~

高倉小百合 (星空を見上げながら) 明日の朝の光が、すべてを照らし出してくれます:~静かできいな月の

夜です…暗がりの中に隠しておいてはいただけませんか…

本間四郎  
お嬢様…

高倉小百合  
朝が訪れるのが怖いですね…太陽の眩しさが、大きな悲しみを、さらけ出してしまいます…（奥に下がる）

木村拓次郎  
（頭を下げる）

ピアノの調べが響いてくる

薩摩芋太郎  
あゝ流れ星が

本間四郎  
今夜は北が空襲ですかね…どこまで焼けば気が済むんだか…

ピアノの音をバックに赤く染まる北の空を眺めている。

静かに暗転

ピアノの音が残って…そして…消えて行く

第十場 (夏の日の陽炎)

鶏の鳴き声とともに、朝がやってくる。

蝉の鳴き声が聞こえてくる。いつもの夏の風景。

空襲警報が、現実へと引き戻すように鳴り響く

本間四郎が防空壕へ入ってくる。

本間四郎 おはようござい……あれ？誰もいない？

関口さくらが入ってくる

関口さくら 今日はなんだか近いですよ。あれ？皆さんは？

本間四郎 まだです

木村拓次郎と再び大きな荷物を背負った上戸椿、あやめ親子が入ってくる

上戸椿 いや、またかいなあ、この！B29め！

関口さくら おはようございます

上戸あやめ 芋がたんと取れたもんで、持ってきたんだが？

上戸椿 あれ？子爵様は？

木村拓次郎 まさか！

本間四郎 朝です！広報が届いたのでは？僕行ってきます！

木村拓次郎 待て、私が行く！

本間四郎 少佐殿！

木村出て行く

爆音が明らかに近い

関口さくら 広報って？

本間四郎 ……

上戸椿 戦死広報じゃ…

関口さくら そうなのですか？

本間四郎 高倉中尉殿が戦死しました…

関口さくら うそ！

上戸椿 そんな…

本間四郎 本当です。玉碎だそうです。

関口さくら 玉碎って…班長さんの息子さんも？

本間四郎 同じ部隊ですから…

上戸あやめ 金魚の糞だから…

木下ウメさんが駆け込んでくる

木下ウメ だれか！だれか！奥様を！

本間四郎 僕が！

木下ウメ 奥様が！

本間四郎 (木下ウメに) あなたはここに！

木下ウメ しかし

本間四郎 待っていてください！

本間四郎 出て行く。

しかし 間髪入れずに増田菊子を担いで帰って来る。

憔悴しきった増田菊子。とにかく座らせる本間四郎や廻りの者たち

木下ウメ 班長、しつかりなさって！

増田菊子 息子が…私の息子が…

上戸椿 班長さん…

爆音が鳴っている

木村拓次郎が高倉百合子を抱えて入ってくる

木下ウメ 奥様！奥様！

高倉百合子 (憔悴しながらも) 大丈夫です…私は大丈夫です…

上戸椿 奥様…この度は…(頭を下げる)

高倉百合子 あなたは……

上戸椿 申し訳ねえだす！うちの息子だけ、おめおめと

高倉百合子 やめなさい！

上戸椿 ……

増田菊子 息子が……私の息子が……奥様！玉碎です！命令ですか！中尉殿の命令ですか！

木下ウメ 落ち着いてください

増田菊子 （奥様に食って掛かる）返してください！私の息子を！この手に返してください！

高倉百合子 無礼者！

増田菊子 ……

高倉百合子 （静かに菊子の前に手をつく）申し訳ございません……部下を守りきれず、部隊を守りきれず……

出来の悪い息子で申し訳ございません……

木下ウメ 奥様……（号泣）

高倉百合子 何の為に……何の為に……

ピアノが聞こえてくる

本間四郎 お嬢様！

木村拓次郎 なにしてんだ！

本間四郎 僕が行きます！

木村拓次郎 馬鹿者！ここにいろ！今日はこの辺りが標的だ！外は嵐だ！

本間四郎 僕が行きます！

木村拓次郎 放せ！放さんか！このままでは高倉に合わせる顔がない！行かせてくれ！

と、木村拓次郎が出て行こうとした所に、本間四郎が木村拓次郎をぶつ倒す

本間四郎 ご無礼をお許してください！僕が行きます！僕は後悔したくないんです！

高倉百合子 あの子を！あの子をお願いします！

本間四郎 僕と結婚させてくれますか？

高倉百合子 それは……

本間四郎 ハハハハ母上様！それでは後ほど！

本間四郎出て行く

ドーンと大きな爆発音  
ピアノと爆音が続いている。  
壕の明かりが不安げに揺れる  
立て続けに爆音が響く

関口さくら 今日に近い！

大きな爆音！悲鳴が上がる。

あまりの恐怖に身を寄せる美咲町の皆さん。

木村拓次郎 (叫ぶ) こんちくしょ！！

上戸椿 (叫ぶ) 負けて堪るか！

木下ウメ (叫ぶ) このやろ！

鳴り響く爆音と声。そしてピアノ！

ピアノがピタリと止まる

高倉百合子 小百合！小百合！

しばし沈黙

高倉小百合が駆け込んでくる

高倉小百合 お母様！家が！家が燃えています！私たちの町も！

高倉百合子 小百合（小百合を抱きしめる）

高倉小百合 お母様

木下ウメ （ポツリと）おひとりですか…

一同 …

高倉小百合 皆さん御無事ですか？

一同 …

高倉小百合 どうかなさいました？

木下ウメ　いえ、何でもありません…

一同沈黙

高倉小百合　（辺りを見回し、本間四郎がいないことに気が付く）まさか！あの方は？  
木下ウメ　お嬢様をお助けに…

高倉小百合　そんな…（駆け出そうとする）

高倉百合子　小百合！

高倉小百合　お母様！

高倉百合子　小百合！（頬を打つ）

高倉小百合　お母様！

高倉百合子　（しっかりと抱きしめて）あなたを死なせるわけにはいかないのです！

高倉小百合　お母様

木村拓次郎　（見届ける様に立ち上がり外に出て行こうとする）

高倉百合子　お待ちなさい！木村少佐殿！

木村拓次郎

…

高倉百合子 木村少佐殿

木村拓次郎  
：

高倉百合子 部下を思い、生徒を思う、愛するに値する素晴らしい教官であると、息子の手紙に書いてありました。

木村拓次郎 行かせてください！このままでは、高倉に教え子たちに合わせる顔がない！行かせてください！

高倉百合子 死に場所があるとでもお思いか！

木村拓次郎  
：

高倉百合子 生きて頂きます！生き抜いていただきます！それが息子を奪われた母親の恨みです！

木村拓次郎 (崩れる) 情けない……死ぬこともできず！

高倉百合子 二度と死ぬなどと口にしないように。よろしいですね！

止まらない爆音！

明かりが揺れる

増田菊子 (関口さくらの子供が目に入る) 強い子ね……

関口さくら 強いのか……無神経なのか……

増田菊子 抱かせて下さる

関口さくら え〜どうぞ〜

増田菊子 ま〜強い子ね〜ね〜んね〜んころりよ〜おころりよ〜（次第に涙声になってくる）

ぼ〜やはよいこだ…このまま、このままでよかったのにね…大きくなると…男の子は…（泣けてくる）

爆音は続く

薩摩芋太郎が入ってくる

薩摩芋太郎 遅くなりました！さあ！本日の稽古は何処から始めますか！

木下ウメ 納豆仮面！歌でも歌え！

薩摩芋太郎 はい！それでは！（歌い出す）燃えろよ〜燃えろ〜よ〜

上戸あやめ 燃えろはねえだろ〜！

薩摩芋太郎 あ〜そうですか〜それでは〜

増田菊子 （小さな声で歌いだす）踊りに行こうよ青い海のもとへ

増田菊子・関口さくら 二人で歌おう明るい恋のリズム

増田菊子・関口さくら・木下ウメ・薩摩芋太郎・上戸椿　　でっかい太陽が恋の女神なのさ

一同　　踊りに行こうよ海は友達なのさ！

歌のボルテージと共に爆音も最高潮！

一同　（絶叫）　シーサイドバウンド！ゴッバウンド！

爆音ピタリと止まる

一同　止まる

ストップモーションのような静寂

関口さくら　（ポツリと）お終わったのかしら…

木下ウメ　　でも解除のサイレンが…

上戸椿　　出してみまるべか？

高倉小百合　私、見えます

木村拓次郎　お待ちなさい！ここは私が、皆さん、離れて

木村拓次郎 扉を開けようとするが、なかなか開かない。

一同 息をのんで見守る

木村拓次郎 渾身の力を込めて扉を開ける（扉が外れる）

眩しいばかりの夏の日差しと、セミの声が飛び込んでくる

木村拓次郎

（外に飛び出し）なんだ〜これは〜

扉に集まるそれぞれ、人影に明かりが遮られ、シルエットのように

外と中が入れ代わる。

夏の日差しが廃墟となった街並みを照らし出す（バルコニー崩壊）

呆然とするそれぞれ、

ポツリポツリと口を開く

関口さくら な〜んにもない…

高倉小百合 家も…橋も…

木下ウメ 全部燃えちまつた…

高倉小百合 道もない…

薩摩芋太郎 これは！何事ですか！

増田菊子 (笑いだす) ハハハハハハ

高倉百合子 奥様？

増田菊子 奥様！見てくださいよ！これを見ておかしくないんですか？

高倉百合子 はい？

増田菊子 おかしい、おかしいじゃないですか？笑うしか…笑うしかないじゃないですか？ハハハ

高倉百合子 笑うしかないですね…

ぼんやりと焼跡を見ているそれぞれ

高倉小百合 あっ！（高倉小百合が本間四郎の学帽を見つける。拾い。ギュツと胸に抱きしめる）

私が…私がいけないの…私のせいで…私のせいで…

木下ウメ お嬢様のせいでは…

高倉小百合 私のせいです…なぜ、私などの為に…

木村拓次郎 あいつは後悔したくないと言って出て行きました

高倉小百合 後悔…

木村拓次郎 あなたに生きろと言っています

高倉小百合 でも私は辛いです

木村拓次郎 あなたを失うようなことがあつてはいけない。あなたを守りきれなかった事を悔やみ続けて生きて行く未来を彼は恐れた…守るために…失われてしまうもの…

高倉小百合 お兄様も…

木村拓次郎 「生きろ」と言っています。命を懸けて守ったものです。大切にしなければ…

高倉小百合 (涙) 辛いです…失うものばかりです…

木下ウメ お嬢様…

木村拓次郎 (去って行くこうとする)

薩摩芋太郎 大佐殿の…!!本日の稽古はどこから始めますか!大佐殿!

増田菊子 さあ行きますか!遠慮はいりませんよ!太陽の下!思いつきり!稽古をしましょう!さあ!

薩摩芋太郎 大佐殿!

木村拓次郎 …よくしさあ!行きますか!納豆仮面の台詞!桜餅ちゃんは下手に待機!

高倉小百合 はい…

木村拓次郎 いくぞくさあ！納豆仮面！登場！

薩摩芋太郎 こ！これを！見るがいい！ついに世界は私のものに！納豆仮面！いざ！いおざ！参上！

突然 本間四郎がボロボロになって現れる！

本間四郎 そこまでだあ！納豆仮面！ゴホゴホゴホ

薩摩芋太郎 なくにをくこしやくなああああ

本間四郎 お嬢様！あくお嬢様！ご無事でしたか！

一同 (啞然・呆然)

本間四郎 いやくよかつたよかつたく御無事でくあく皆さんも御無事で、いやくもう死ぬかと思いましたがよ

木村拓次郎 間が悪い男だねく死ぬよく死ななきやくここで死んでなきやくハハハハ

高倉小百合 (呆然) あ、あの、あなたは…

本間四郎 僕は愛と正義の使者大福仮面です。なんちゃって

木下ウメ (とりあえず叩く)

高倉小百合 (学帽に目が行き) あのこれ…落ちていました

本間四郎 あ〜どうも…

高倉小百合 あの

本間四郎 はい！

高倉小百合 高倉小百合です。ごきげんよう（手を出す）

本間四郎 ああ〜僕は本間四郎です。ごきげんよう（手を出す）

薩摩芋太郎 自分は薩摩芋太郎です。いただきます！（手を出す）

なぜか三人で握手をしている。

増田菊子 さあ〜〜〜稽古を始めますよ〜位置について〜

芝居が始まる

関口さくら ジャンジャンジャン〜ン！いま山の頂に立つあの男！そうだ！恐れないで！みんなの為に！愛

と勇気だけが友達さ！その男の名は！「大福仮面！」ジャンジャンジャン！（大福仮面振り返る）

今もどこかで助けを求めている人がいる！

木下ウメ きゃ〜助けて〜大福仮面！

木村拓次郎 まて〜やはり貴様だったのか！納豆仮面

薩摩芋太郎 オ〜フワフワフワア〜粘りが！粘りがアアアしんじようでねえええええ〜納豆！納豆仮

面！只今アアア参上！（カキーンと見得を切る）大福仮面！覚悟〜〜〜

「必殺！」ネバネバ手裏剣！いざあああ

本間四郎 ん！何の！何のこれしき！あああ体がネバネバしてきた…

薩摩芋太郎 いや！さらばだ！さらばだ嗚呼嗚大福仮面！これからは、悪の帝王このこのこの納豆仮面があ

ああああこの世を支配する〜〜いよ！薩摩屋！

本間四郎 あ〜ダメだ〜あ〜体が腐ってきたあ〜あ〜もはやこれまでかあ〜

高倉小百合 しっかりして！大福仮面！あなたは子供たちの夢と希望の星なのよ〜

本間四郎 あああ〜愛しの桜餅ちゃん！

オープニングと同じように ザ・タイガース「廃墟の鳩」

高倉小百合 さあ、大福仮面！立つのよ！立ち上がって！あなたと私の愛の力で悪の帝王納豆仮面を倒すのよ！

本間四郎 ああ力が湧いてきて！これが！これが愛の力なんだ！さあ、かかって来い！納豆仮面！

薩摩芋太郎

な〜〜あに〜〜を〜こしやくなあああああああああ〜大福仮面！この世界を支配するのは！

支配するのはわあああ〜支配するのは〜この（チヨン）なっとう〜〜か〜〜め〜〜ん〜  
〜いよ！薩摩屋！

音楽が残る中で、徐々に暗転。

音楽が残り

おしまい